

## 配慮を理解していただくことは可能ですか —新しい依頼表現と世代差—

高橋圭子・東泉裕子

### 要旨

配慮表現は「敬意低減の法則」により変化が速い。例えば、依頼表現においては、最近、「～てもらってもよろしいですか」といった「許可求め型」、「～ていただくことは可能ですか」といった「可能型」の新しいタイプの出現が認められる。質問紙調査を行った結果、これらの新しい表現の丁寧度判定は若年層より中高年層のほうが有意に低く、特に「可能型」における差は顕著であった。若年層は、漢語「可能」や丁寧のマーカ―「です」の使用により丁寧度を高めた表現を用いようとしている。しかし、その若年層の配慮は中高年層には伝わりにくく、世代間摩擦や誤解につながるおそれもある。日本語教育においても依頼表現の扱い方には慎重な検討が必要である。

### キーワード

依頼表現、丁寧度、世代差、「許可求め型」、「可能型」

### 1. はじめに

依頼は、話し手にプラスになるよう相手の行動を促す行為であり、そのため、依頼表現にはその内容や相手との関係などに応じてさまざまな配慮が必要になる。配慮を要する表現については、語用論の分野では間接発話行為 (Searle1969) やポライトネス (Brown and Levinson1987) の枠組みで研究が進められている (小林 2003 など)。日本語においては「配慮表現」と呼ばれ、「対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられることが、一定程度以上に慣習化された言語表現」(山岡他 2018, p. 159) などと定義されている<sup>(1)</sup>。しかし、そのような配慮表現も使用されているうちに次第に配慮の意が希薄化し (井上 1999, p. 62)、新しい表現が出現してくることになる。一般的に、新しい表現は若年層によって担われ、中高年層には違和感を持たれることが多く、世代差が顕著に表れる。

現代日本語の依頼表現については、例えば、コーパスやウェブにおいて、次のようなものが見出される<sup>(2)</sup>。

- (1) すみません、こちらのほうにも記入していただけますか— (「現日研・職場談話コーパス」、会話 ID : M19K011)
- (2) お手数ですが、簡単な手順など教えてもらってよいですか? (「現代日本語書き言葉均衡コーパス」、サンプル ID : 0C02\_02145、特定目的・知恵袋、2005 年)
- (3) 明日 13 時にお約束しているミーティングの件で、ご連絡いたしました。誠に申し訳ございませんが、時間を 14 時にずらしていただくことは可能でしょうか。(「リクナビ NEXT ジャーナル」)

(1)は、日本語教育の教科書などでも広く取り上げられている従来の丁寧な依頼表現であり、「V て {もらえ/いただけ} {ます/ません} (でしょう) か」「V て {くれ/ください} {ます/ません} (でしょう) か」のバリエーションがある。本稿ではこれを「従来型」と呼ぶ。(2)は、蒲谷 (2007) などにより「許可求め型」と呼ばれる依頼表現で、「V て {もらっ/いただい} て (も) {いい/よろしい} {です/でしょう} か」のバリエーションがある。(3)は、「V て {もらう/いただく} ことは可能 {です/でしょう} か」のバリエーションがある。本稿ではこれを「可能型」の依頼表現と呼ぶ<sup>(3)</sup>。

本稿では、「許可求め型」と「可能型」を中心とする依頼表現について、受けとめ方の世代差の有無を探るため行った質問紙調査の結果を報告するとともに、日本語教育における依頼表現の扱い方について考える。

## 2. 先行研究

依頼表現に関する先行研究は枚挙にいとまがないが、その中で先駆的とも言うべき井出他 (1986) は、日米の大学生を対象として次のような調査を行い、丁寧度による表現の使い分けの仕組みを考察している。

- ① パイロット調査で挙げられたペンを借りる表現約 20 種類について、それぞれの丁寧度を 5 段階で査定してもらおう。
- ② 親、親友、恋人、コンビニの店員、医者、警官など 20 種類の人物カテゴリーに対する待遇の丁寧度を 5 段階で査定してもらおう。
- ③ 調査②の相手に対して用いる表現を調査①の中から選んでもらう。

この調査で高い丁寧度評価を得た日本語の依頼表現には、「貸していただけますか」、「お借りしてもよろしいでしょうか」、「お借りできますか」などがある。

蒲谷他 (1998)、蒲谷 (2007) などは、「行動」「決定権」「利益」の 3 点から「依頼表現」「許可求め表現」について(4)のように定義している。

- (4) 「依頼表現」は、「行動」＝「相手」、「決定権」＝「相手」、「利益・恩恵」＝「自分」という構造を持つ表現であり、「許可求め表現」は、「行動」＝「自分」、「決定権」＝「相手」、「利益・恩恵」＝「自分」という構造を持つ表現である。(蒲谷 2007、p. 39)

(4)の定義に従えば、井出他 (1986) で高い丁寧度評価を得た表現のうち、「貸していただけますか」は「行動」＝「相手」、「決定権」＝「相手」、「利益・恩恵」＝「自分」の「依頼表現」であり、「お借りしてもよろしいでしょうか」「お借りできますか」は「行動」＝「自分」、「決定権」＝「相手」、「利益・恩恵」＝「自分」の「許可求め表現」である。

また、本稿における(1)～(3)の依頼表現の分類と比較すると、井出他 (1986) の「貸していただけますか」は(1)の「従来型」の依頼表現である。一方、(2)の「V てもらって

よいですか」のような「許可求め型」の依頼表現、(3)の「V ていただくことは可能でしょうか」のような「可能型」の依頼表現は井出他（1986）には見られない。

「許可求め型」の依頼表現について、尾崎（2015、p. 1）は 2000 年前後から使われ始めた表現と推測している<sup>(4)</sup>。この新しい表現について、先行諸研究の共通点は(5)のようにまとめられる（文化庁 2007、蒲谷 2007、山岡他 2010、熊井 2012、尾崎 2015、滝島・山下 2017 など）。

- (5) a. 「許可求め型」の新しい依頼表現の使用が増加している。
- b. 「許可求め型」の増加の要因は、決定権が相手にあることの明示化により「従来型」より丁寧度を上げられるためと考えられる。
- c. 「許可求め型」の依頼表現に対する好悪はあっても、この使用は今後さらに拡大していくと推測される。

「許可求め型」の依頼表現に対する否定的評価は少なくない。例えば、砂川（2005、p. 89）は「依頼の押しつけがましさを軽減しようとしている」つもりだろうが「現実はいくらか逆効果」であると述べている。また、野口（2009、pp. 128-135）は、行為者が聞き手か第三者かわからないという「紛らわしさ」と、「形の上では遠慮と低姿勢の産物のような」表現でありながらノーと言うことを許さない「傲慢さ」を非難している。文化庁（2007、p. 49）は、「回りくどい、言い換えれば、婉曲的な」表現であるとしている<sup>(5)</sup>。

「可能型」に関する先行研究は、管見では見当たらない。「許可求め型」よりさらに新しく出現した依頼表現であると思われる。

### 3. 調査

#### 3.1 リサーチ・クエスチョン

井出他（1986）の調査から 30 年以上が経過し、依頼表現には「許可求め型」や「可能型」のような新しいタイプが出現している。しかし、これらについての丁寧度調査は管見ではまだない。そこで、本稿では次のようなリサーチ・クエスチョン（RQ）のもとに、あらためて調査を実施したいと考えた。

RQ1：若年層は、丁寧に待遇するべきと考える人物に対して、どのような依頼表現を用いるのか。

RQ2：若年層・中高年層はそれぞれ、RQ1 の依頼表現の丁寧度をどのように見積もっているのか。

#### 3.2 予備調査

2018 年 4 月、東京都区内の大学に在学する女子学生 48 名に協力してもらい、次の 2 種類の調査を行った。これは、RQ1 に対応するものである。

- ① 井出他（1986）を参考に、18 種類の人物カテゴリー（親、兄・姉、弟・妹、親友、恋人、顔見知りの学生、大学の年配の先生、大学の若手の先生、大学の教員

以外のスタッフ、アルバイト仲間、アルバイトの上司、高級店の店員、コンビニの店員、医者、警官、郵便局員、中年の初対面の人、若い初対面の人)を提示し、それぞれの人物に対する待遇の丁寧度を5段階で評価してもらう。

② それぞれの人物にペンを借りる際の依頼表現を自由記述で回答してもらう。

予備調査①の結果、丁寧度の平均が5段階評価で4以上の人物カテゴリーは、「大学の年配の先生」(平均4.7)、「中年の初対面の人」(同4.3)、「大学の若手の先生」(同4.2)、「高級店の店員」(同4.1)であった。

予備調査②から、この4種類の人物にペンを借りる表現として挙げられたものを「従来型」、「許可求め型」、「可能型」などに分類し、本調査における調査対象表現を選ぶ参考にした。

### 3.3 本調査

2018年12月～2019年2月、次の(ア)～(サ)の各表現について、調査協力者に丁寧度を10段階で評価してもらった<sup>(6)</sup>。これは、RQ2に対応するものである。

- (ア) ペンを貸していただいてもよろしいですか
- (イ) ペンを貸していただくことは可能ですか
- (ウ) ペンを貸していただくことはできますか
- (エ) ペンをお借りしてもよろしいですか
- (オ) ペンをお借りすることは可能ですか
- (カ) ペンをお借りすることはできますか
- (キ) ペンを貸していただけますか
- (ク) ペンを貸してくれますか
- (ケ) ペンを貸してもらえますか
- (コ) ペンを貸してください
- (サ) ペン貸して

調査対象表現の(ア)は「許可求め型」、(イ)・(ウ)は「可能型」、(キ)～(コ)は「従来型」の依頼表現である。予備調査②では、いずれのタイプにおいても「でしょう」の使用は少なく、また、否定形「ませんか」より肯定形「ますか」のほうが多用されていたため、調査対象表現の文末は「ですか/ますか」で統一した。なお、(エ)～(カ)は「行動」＝「自分」であるため(4)の定義に従えば依頼表現ではないが、予備調査②で出現した表現であり、「許可求め型」や「可能型」の依頼表現と比較するため調査対象表現とした。(サ)は、丁寧度評価の比較対象とするため調査対象表現に入れた。

表1は協力者の属性をまとめたものである。また、表2は調査対象表現の丁寧度評価の年齢層別平均・分散・*t*検定の結果である<sup>(7)</sup>。

表 1 調査協力者の属性

		女性	男性	無回答	計
若年層	10～20代	157	93	11	261
中高年層	30代	2	1	3	6
	40代	21	7	1	29
	50代	19	11	0	30
	60代	15	9	4	28
	70代以上	5	9	2	16
	小計	62	37	10	109
総計		219	130	21	370

表 2 依頼表現の丁寧度評価の年齢層別平均・分散と *t* 検定の結果

		(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)	(サ)
若年層	平均	9.3	8.3	7.9	8.3	7.4	6.9	6.2	4.3	4.5	3.6	1.2
	分散	1.5	1.6	1.7	2.1	1.9	2.1	2.5	2.5	2.7	2.6	0.6
中高年層	平均	8.8	7.3	7.5	8.6	6.8	7.1	6.9	3.7	4.4	3.5	1.1
	分散	2.3	2.9	1.9	2.0	2.6	2.4	3.1	2.6	2.5	2.3	0.1
<i>t</i> 値		3.4***	5.4***	2.3*	1.7	3.7***	1.0	3.1**	3.1**	0.6	0.7	1.5

\*  $p < .05$ 、 \*\*  $p < .01$ 、 \*\*\*  $p < .001$ 、 無印 = n. s.

若年層と中高年層の間に最も顕著な差が見られたものは (イ)・(オ)であり、「可能ですか」は世代差に注意が必要な表現であることがわかる。

「許可求め型」の(ア)「ペンを貸していただいてもよろしいですか」は、中高年層にもかなり受け入れられるようになってきたものの、世代差はまだ大きい。中高年層は分散も大きく、受けとめ方に個人差が大きいと言える。これは、「可能型」についても同様である。今回の調査では自由記述欄は設けなかったが、中高年層の回答者の中には、「許可求め型」や「可能型」に対する違和感を書き残した人もいる。その一部を(6)に示す。

- (6) a. (イ)・(オ)は使用したことがない。(40歳代女性)
- b. (ア)・(イ)・(ウ)・(オ)・(カ)は丁寧だけど不自然。(40歳代女性)
- c. 最も丁寧だと思う表現は、「ペンをお借りしてもよろしいでしょうか」で、この中にはない。(40歳代男性)
- d. 日本語として変だなと思う表現は、ていねいとか判断できないので○とかつけませんでした。(50歳代女性、(ア)・(イ)・(ウ)・(オ)・(ク)無回答)
- e. 「丁寧さの程度」という基準に「日本語としての自然さ」(多分に好み?)という基準を加味しています。(50歳代男性)
- f. (ア)・(イ)・(ウ)は慇懃無礼。(60歳代男性)
- g. (イ)・(ウ)・(オ)は日本語として使用しないと思います。(70歳代男性)

一方、「従来型」の(キ)「ペンを貸していただけますか」は「許可求め型」・「可能型」とは逆に、若年層のほうが中高年層より丁寧度判定が有意に低い。丁寧度の高い表現としていったん受けとめられた表現であっても、使われているうちに定型化して丁寧度が低下するという「敬意低減の法則」(井上 1999, p. 62)の例と言えるだろう。

なお、(ク)「貸してくれますか」の若年層による丁寧度判定が中高年層より有意に高い理由や、(6e)のように丁寧度判定に自然度判定が加味された回答があることについての考察は、今後の検討課題である。

#### 4. 考察

本節では「許可求め型」や「可能型」といった新しい依頼表現の出現と広まりについて、若干の考察を試みる。

森(2016)によれば、依頼表現は中世末期から近現代にかけて、「おVあれ」「(お)Vなされ」「(お)Vなさい」といった尊敬語の命令形から「Vてください」「Vください」といった受益の尊敬語の命令形に変化してきた、つまり受益表現の使用が必須化した、という。そして尾崎(2015)は、1953・1972・2008年の3回の調査において、「Vください」のような「非問いかけ型」の比率が減少し、「Vてもらえますか」のような「問いかけ型」の比率が上昇していると指摘している。すなわち、尊敬語の使用より「決定権」＝「相手」の明示のほうが、丁寧な表現と感じられるよう変化してきているのである。

以前は相手への配慮をこめた丁寧度の高かった表現も、時間とともに定型化し、そこにこめられた配慮の意が希薄化する。これは、「敬意低減の法則」があてはまる現象の一つである。尊敬語「なさい」「ください」は現在では依頼というよりむしろ命令・指示の表現として定型化している。そして、「Vて{もらえ/いただけ}ますか」のような「問いかけ型」の依頼表現においても、使用の比率の上昇とともに、「決定権」＝「相手」の明示によって表されていた配慮の意が希薄化したため、それをいっそう強化した「許可求め型」が出現したと考えられている(前述(5b))。

同様に、「Vて{もらえ/いただけ}ますか」という「従来型」においても、配慮の意が希薄化してきていると考えられる。これは、「もらえる/いただける」という可能形を使用し、可能性を問うことで依頼という間接発話行為を遂行する婉曲表現であった。ところが、依頼表現として定型化することで間接性・婉曲性が希薄化し、丁寧度が低下したため、可能性をあらためて明示化した「可能型」の依頼表現が出現した、と考えられる<sup>(8)</sup>。

井出他(1986)においても、すでに「お借りできますか」は丁寧度の高い表現として挙げられている。さらに、現在の「Vことは可能ですか」という「可能型」の依頼表現は、「可能」という漢語、「です」という丁寧のマーカの使用によって相手への配慮をこめようとしたものであると考えられる。漢語の使用は、改まり度・丁寧度を高める効果を狙ったものであろう。また、「です」の使用は、依頼表現に限らず、近年、これ自体で丁寧のマーカとして用いられているという指摘もあり<sup>(9)</sup>、丁寧度を高めるために使用されたものと考えられる。

#### 5. まとめと課題

「許可求め型」・「可能型」の新しい依頼表現の丁寧度について、本稿の調査結果から

は、中高年層と若年層の間に有意な差があることがわかった。

問題は、若年層が中高年層に対して丁寧な表現としてこれらの新しい表現を用いた場合である。若年層のその配慮は中高年層には伝わらず、世代間摩擦の要因の一つになるだろう。そして、留学生もまた、周囲の若年層の用いる表現を敏感に取り入れ、中高年層や教師から「間違っている」「不自然」と批判されるおそれが大いにある。これは、依頼表現だけでなく、配慮表現全般に通じる問題だろう。日本語教育における扱い方にも、慎重な検討が必要である。

今後の課題として、より緻密な調査設計（調査協力者数の調整、調査対象表現および提示順序の精査、依頼の内容・負荷の大きさの検討）、理論的考察の深化（配慮表現全般の中での位置づけや、語用論、特にポライトネス理論におけるさまざまな知見との関わり）などが挙げられる。

(高橋圭子たかはしけいこ・明治大学)

(東泉裕子ひがしいずみゆうこ・明治大学)

## 謝辞

質問紙調査にご協力くださった皆様、データ収集にご尽力くださった鎌水兼貴氏・島宗雅紀氏・佐藤万里氏、統計処理についてご教示くださった佐々木新一氏・新井保裕氏、原稿を丁寧に読み有益なコメントをくださったアドバイザー諸氏に感謝申し上げます。

## 注

1. 「配慮表現」という用語の定着に至る経緯やポライトネスとの関わりをめぐる議論は、山岡他（2010・2018）に詳しい。
2. 「現日研・職場談話コーパス（データバージョン 2018.03、検索ツール：中納言 2.4.2）」「現代日本語書き言葉均衡コーパス（データバージョン 1.1、検索ツール：中納言 2.4）」は国立国語研究所コーパス開発センターによる。なお、用例中の下線は本稿筆者が付したものである。
3. 記号の意味は次のとおりである。V：動詞、{a/b}：aまたはb、（ ）：任意。なお、「従来型」には「「V て {もらえ/いただけ} ないでしょうか」「V て {くれ/くださら} ないでしょうか」も含まれる。また、本稿での「可能型」は、「可能」「できる」という表現が用いられているもののみを指し、「V- {eる/られる}」「V て {もらえる/いただける}」のように本動詞・補助動詞に可能形の使用されている表現は含めない。
4. 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」には1971～2008年のデータが収められており、「許可求め型」依頼表現は2005年の知恵袋と2008年のブログに各2例が見出される。なお、「可能型」依頼表現の例は見当たらない。
5. ウェブ上でも、「教えて！goo」2007年8月29日付、「読売新聞オンライン発言小町」2008年5月10日付などの投稿に、「許可求め型」依頼表現に対する違和感・拒否感が述べられている。
6. 調査協力者は、若年層は関東地方の大学生、中高年層は原則として関東地方在住の40～60歳代の社会人である。ただし中高年層は、居住地については大阪1名（50歳代男性）・新潟2名（30歳代男女各1名）、年齢については30代・70代以上も含まれる（表

1 参照)。なお、調査依頼文は以下のとおりである。

(ア)～(サ)の中で、「最も丁寧だ」と思う表現は 10 を○で囲み、「最も気軽な表現だ」と思うものは 1 を○で囲んでください。そして、その他の表現は 1～10 のどこだと思いか、数字を○で囲んでください。

調査対象表現はすべての協力者に対し、(ア)～(サ)の順序で提示した。調査の主目的である「許可求め型」・「可能型」をはじめのほうに、比較対象とする表現をそのあとに並べたが、この提示順序によるバイアスの可能性は否定できない。今後の課題である。また、調査用紙の回答欄には、10 から 1 まで等間隔に数値を記したスケールを用意し、間隔尺度として統計処理できるようにした。

7. 2 群のサンプルサイズが異なると  $t$  検定の検出力が下がるという問題がある。今後の課題の 1 つである。
8. 山岡他(2010、p. 153) は可能形の使用について次のように説明している。「動詞を可能形にすることによって受益者の意志性を捨象する。(中略) これにより、相手の判断を受身的に受け入れるという態度を表すことになる」。
9. 「です」自体で丁寧のマーカースとして用いられている例として、「～に期待です」「～をよろしくです」(鈴木 2012)、「なるほどですね」(井上 1999、p. 107) などが挙げられる。ただし、丁寧のマーカースとしての「です」の使用には違和感も根強く、「大きいです」のような「形容詞+です」には抵抗を感じる人が多い(井上 1999、p. 104) という。また、「です」という言い切りの形の使用も中高年層の違和感の一因となっているかもしれない。例えば、(6c)の「ペンをお借りしてもよろしいでしょうか」が最も丁寧だとするコメントは、調査対象表現(エ)「ペンをお借りしてもよろしいですか」と比較してのものであろう。やわらかい印象を与える「でしよう」と強い断定口調の「です」の丁寧度評価が今後の調査課題である。

## 参考文献

- 井出祥子・川崎晶子・生田少子・荻野綱男 (1986) 『日本人とアメリカ人の敬語行動—大學生の場合—』南雲堂
- 井上史雄 (1999) 『敬語はこわくない』講談社現代新書
- 尾崎喜光 (2015) 「『～てもらっていい?』の普及に関する研究」『清心語文』17, 1-24.  
<<http://id.nii.ac.jp/1560/00000191/>> (2019年2月17日閲覧)
- 蒲谷宏 (2007) 「『丁寧さ』の原理に基づく「許可求め型表現」に関する考察」『国語学  
研究と資料』30, 37-46. <<http://hdl.handle.net/2065/29459>> (2019年2月12日  
閲覧)
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1998) 『敬語表現』大修館書店
- 熊井浩子 (2012) 「行為要求型表現について—V テモラッテイイカを中心に—」『静岡大学  
国際交流センター紀要』6, 1-19. <[https://shizuoka.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=5210&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://shizuoka.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=5210&item_no=1&page_id=13&block_id=21)> (2019年2月22日閲覧)
- 小林正佳 (2013) 「スピーチアクトと丁寧表現に関する実証的社会語用論からの一考察」  
『語用論研究』5, 59-71 <[https://pragmatics.gr.jp/content/files/SIP\\_005/](https://pragmatics.gr.jp/content/files/SIP_005/)>



SIP\_05\_Kobayashi. pdf > (2019年4月23日閲覧)

鈴木智美 (2012) 「ニュース報道およびブログ等に見られる『～です』文の意味・機能～『～を徹底取材です』『～に期待です』『～をよろしくです』～」『東京外国語大学論集』84, 341-357. < [http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/70857/2/acs084017\\_ful.pdf](http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/70857/2/acs084017_ful.pdf) > (2019年2月22日閲覧)

砂川有里子 (2005) 「ご住所書いてもらっていいですか」, 北原保雄 (編著) 『続弾! 問題な日本語』大修館書店, 84-89.

滝島雅子・山下洋子 (2017) 「報告させていただいてもよろしいですか? - 2016年『日本語のゆれに関する調査』から①-」『放送研究と調査』7月号, 86-105.

< [https://www.nhk.or.jp/bunken/research/kotoba/pdf/20170701\\_6.pdf](https://www.nhk.or.jp/bunken/research/kotoba/pdf/20170701_6.pdf) > (2019年2月14日閲覧)

野口恵子 (2009) 『バカ丁寧化する日本語』光文社新書

文化庁 (2007) 『敬語の指針』文化審議会答申 < [http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai\\_6/pdf/keigo\\_tousin.pdf](http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai_6/pdf/keigo_tousin.pdf) > (2019年2月7日閲覧)

森勇太 (2016) 『発話行為から見た日本語授受表現の歴史的研究』ひつじ書房

山岡政紀・牧野功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現 - 日本語語用論入門 -』明治書院

山岡政紀・牧野功・小野正樹 (2018) 『新版 日本語語用論入門 - コミュニケーション理論から見た日本語 -』明治書院

BROWN, P. and LEVINSON, S. C. (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*, Cambridge: Cambridge University Press

SEARLE, J. R. (1969) *Speech Acts: An Essay in the Philosophy of Language*, Cambridge: Cambridge University Press 坂本百大・土屋俊訳 (1986) 『言語行為』勁草書房

### 参考 web サイト

教えて! goo (2007) 「『～してもらっていいですか』って気に障りませんか？」

< <https://oshiete.goo.ne.jp/qa/3298564.html> > (2019年2月15日閲覧)

国立国語研究所コーパス開発センター < [https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/) > (2019年2月22日閲覧)

読売新聞オンライン発言小町 「『～してもらっていいですか?』って、普通ですか?」 < <https://komachi.yomiuri.co.jp/t/2008/0510/182731.htm> > (2019年2月15日閲覧)

リクナビ NEXT ジャーナル < [https://next.rikunabi.com/journal/20170207\\_m1/](https://next.rikunabi.com/journal/20170207_m1/) > (2019年2月14日閲覧)